

国税庁の キャリアステップ



係員

P15

1～3年目

係員

国税庁職員として基本的な知識・能力を習得する。また、3年目には税務行政の最前線である税務署において、調査・徴収等の現場を経験する。



係員

P16



留学

P18

4～6年目

係長・留学

係のマネジメントを行う。また、留学を経験し、語学・税法等の高度な知識を習得する。



係長

P17



課長補佐

P19



課長補佐

P20

7年目～

課長補佐

行政の最前線に立ち、税務行政の企画・立案に主体的に携わる。

※ 大半の職員が、この間に税務署長や国税局課長等を経験しマネジメント業務に携わるほか、他省庁、地方自治体、海外（在外公館・国際機関）での勤務を経験します。

国税局部長
企画官
室長

P21



課長

P23



国税庁の最大の資産は人材です。そのため、職員を大切に、職員一人一人に応じ、自らを磨き上げ、成長する機会を用意しています。

総合職職員は、若いうちから責任ある仕事を任せられ、自分が練り上げた施策が実現していく様子を見ることになります。ときに自分の考えが、56,000人という巨大な組織を動かし、日本の税務行政をよりよいものへ進化させることができた際には、大きなやりがいとそのスケールの大きさに身震いすることでしょう。

しかし、そこには、大変な努力と苦勞があります。そうした、負荷と困難を乗り越え、掴み取ることができた感動こそが、自分を一人前の行政官として成長させてくれるバネとなるのです。